



子どもたちへ向けた男女共同参画の推進 ～男女共同参画のバトンを繋げていくために～



「都留市男女共同参画推進委員会」では、地域に男女共同参画の取り組みを広げていくための活動を行っています。第12期推進委員会では、「子どもたちへ向けた男女共同参画の推進」をテーマに、子どものころから男女共同参画について考えてもらう取り組みを進めています。

今回の機関紙「はばたき」では、山梨県の男女共同参画・共生社会推進専門人材専門アドバイザーとしても活動されている都留文科大学の富永貴公准教授にお話を伺ってきました。

「都留市男女共同参画推進委員会」ってなに？

市民からの公募や地域で活動する団体の方など、様々な属性の委員から構成されており、現在は13名で活動しています。

平成12年度から都留市男女共同参画推進委員会として活動を始め、どうやって地域に男女共同参画の取り組みを広げていくか協議を重ねながら啓発活動などの事業を行っています。



今回のアドバイザー



たかひろ
富永 貴公 准教授

都留文科大学教養学部地域社会学科の専任教員。専門分野は、社会教育学・生涯学習論、ジェンダー・セクシュアリティ研究で、山梨県が設置する男女共同参画・共生社会推進専門人材のLGBTQ分野の専門アドバイザーとしても活動されています。

参加した委員



加藤委員長
2児の母
協働のまちづくり
から縁があり参加



土橋委員
男女共同参画推進
センターびゅあ富
士職員



高橋委員
現役大学生
都留市の男女共同
参画政策に関わり
たい



藤江委員
男女共同参画活動
を広めたくて公募
で参加



野武委員
地元神楽の保存継
承、自主防災活動
に取り組む中

今、委員会では悩みが：

加藤 男女共同参画について、色々勉強はしてきたけれど、どうやって市民に意識を持ってもらえばいいかわからなくなっています。

高橋 ジェンダー教育をどのように取り組んでいったらいいのかが難しい。

野武 男女共同参画と言われても、漠然としていて分野も広いので、難しいと感じています。

加藤 先生は、男女共同参画について、どのようにして市民に意識を持ってもらうとうよいと思いますか。



富永 男女共同参画に正解はなく、地域に合ったやり方を取り組んでいくことが大事だと思います。都会で行っていることを都留市でも同じようにやっても効果が出ない、ということもあるでしょう。

小学校で出前講座を実施して感じたこと

加藤 今年、小学生を対象に出前講座を実施しました。今の子どもたちは、男子らしく女子らしくとされている人が少なく、男女の意識の差があまりないように感じました。

高橋 子どもたちにとっては、逆に男女に差があることが不思議で、私たちの質問の意図が伝わらない場面もありました。

加藤 職業の話をしている時にも、女性の医師や男性の看護師もいるし、自分がやりたい仕事に就けばいいじゃん、という感じでしたね。

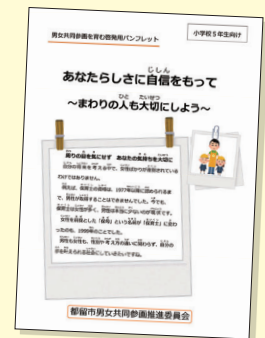
富永 小学生は柔軟ですが、社会の意識は変わっていないというのが現状ですね。

小学生を対象とした出前講座



谷村第二小学校において、推進委員が講師となって出前講座を行いました。

「男らしさ、女らしさって何だろう？」をテーマに、どんな価値観を持っていてもいい、他人と違っていてもいい、「あなたらしさ」を大切にしてほしいというメッセージを伝えました。



小学校で配布している啓発教材

大人が子どもの価値観を否定しない

富永 大人には大人なりの価値観がありますが、その価値観で子どもたちの活躍を制限しないように意識していただけたらと思います。

「大人がいかに関心の価値観を次の世代に引き継がないか」が大事なことです。

野武 普段から意識していないと難しいですね。

富永 自分の価値観を全て引き継がないようにするのは難しいですが、価値観を押しつけてしまった時に自覚できるかが大切だと思います。

加藤 これまで子どもを中心に活動してきましたが、もう少し上の世代をターゲットにしたほうが良いでしょうか。

富永 まずは子どもに向けた男女共同参画を推進する中で、間接的に大人に「子どもの発達を制限せず、子どもたちの価値観を否定しないであげてください。」と伝えていくのはどうでしょうか。

男女共同参画の取り組みを広げていくために

野武 先生から見て、都留市で広く市民に男女共同参画の意識を持ってもらうために大切だと思うことはありますか。

富永 地域において自治会長などの地域の役員に女性が多くなれない、という状況があるのであれば、その状況を前提として、「じゃあ、女性が地域でも活躍できるようにするにはどうしたらいいか」という仕組みづくりを進めていくことが大事ではないかと思います。端的に「女性を活躍させてください」と言うを押すだけではいけないでしょうか。女性が今まで担ってきたこと、毎日忙しく働いているお母さんのリアル、次世代を育成していくことの大切さなどを伝えていけると、受け入れられやすいのではないのでしょうか。

加藤 確かに、男女共同参画の意識を持ってもらいた

いがために、押しつけになつていた気がします。価値観を押しつけず、選択を認めることが大切ですね。**富永** 特に、働くお母さんのリアルは知ってほしいですね。「命と暮らしを守る」ということはとても価値がありますが、忘れられがちなんです。男性も女性も社会に出て活躍するところだけがクローズアップされてしまうと、命や暮らしを守っていた活動は、どうしても軽視されてしまします。これまで「命と暮らしを守る」という大事なことを、性別役割分担の中で、



多くは女性が担ってきましたが、それ相応に評価されるべきだと思います。

藤江 時代は変わりましたよね。働いているお母さんの話を聞くと、私は羨ましくなります。

加藤 子育ては確かに大変だけれど楽しいと感じています。

富永 セクシャルマイノリティやイクメン、ワークライフバランスの話など、男女共同参画の分野では聞かないいい言葉ばかり先行してしまします。「何かすごい大変なんだけど、でもこんなに楽しい」という働くお母さんのリアルを発信していかないと、誰も「命と暮らしを守る」ことができないし、少子化も進んでいくだけだと思います。

土橋 働く女性に今起きているリアルを取り上げるのも一つの事業になりそうですね。新しい視点をいただきました。ありがとうございます。

対談を終えて…

今回の対談を通して、本市において男女共同参画の取り組みを広めていくために、男女共同参画推進委員会としてどのような活動が必要か、新しい視点を得ることができました。

「命と暮らしを守る」という、私たちが生きていく上で欠かせないことの価値を改めて認識し、その価値を評価することはとても大切なことです。一見すると、日常の中にある当たり前のような出来事であっても、実はとても大切な価値のあることだということに気づき、様々な生き方や価値観を認め合うことが男女共同参画の推進に繋がると私たちは考えます。

男女共同参画のバトンを次の世代に繋げられるように、私たち男女共同参画推進委員会は今後も活動を続けていきます。

山梨県 男女共同参画・共生社会推進専門人材
「専門アドバイザー」設置事業

男女共同参画のお悩みに 専門家がお答えします！



「自治会役員に女性を増やしたいが、どうしていいのかわからない。」「DVを若い人たちにもっと知ってもらいたいのにどうしていいかわからない。」…

こんな「男女共同参画のお悩み」はありませんか？専門家がお悩みを持っている団体や地域にうかがって相談に乗り、課題解決のために一緒に考えます。

問合せ・申込先

山梨県男女共同参画推進センター「ぴゅあ」
☎ 055(226)0826